［別紙２］

論文審査の結果の要旨

申請者氏名 Pham Bao Duong

本論文は、ベトナム国家銀行や農業銀行の業務資料、フィールド調査で得られた農家経済資料等を使って、ドイモイ以降のベトナム農村金融の成果を包括的に分析したものである。ミクロの分析ではTobit分析、Probit modelおよびswitching regression等の計量的手法が使われている。

ベトナムでは1986年のドイモイ政策以降、多くの分野で重要な改革がなされた。計画経済的な手法は放棄され、農家が生産の基本的な単位であることが正式に認められた。土地利用権証書も配分され、その譲渡、売買等が許されることとなった。販売、生産資材の流通についても大幅な規制緩和がなされた。農民の生産意欲は解放され、生産拡大・所得上昇への機運が高まった。しかしインセンチブの付与だけで生産の増加、所得の改善が果たされたわけではない。農業・農村の発展のためにはなによりも資金が必要である。1990年代の初頭から本格的に業務を開始したベトナム農業銀行は、そのような農業・農村発展のための資金をいわば上から供給する任務を帯びていたのである。

しかし、近年世界を席巻してきている金融自由化論の論調は、そのような供給主導型の農業金融政策がしばしば失敗し、当初の目的を遂げることができないことを主張している。フィリピンやパキスタン等の国々での農業政策金融の成果は惨憺たるものであり、金融の持続が不可能という状態が生じた。総じて供給主導型といわれる農村金融戦略は失敗したケースが多く、そのことを踏まえて、補助付き融資批判の合唱とともに、政府主導の農村金融戦略に対する批判的見解が跋扈してきている。

さてベトナムの供給主導型農村金融の帰結はどうであったのか。またそれはベトナムの農業にどういうインパクトを与えたのであろうか。あるいはインフォーマルな金融がなお大きな比重をもつ中で、フォーマル金融の資金配分はどうなされたのであろうか。本論文のテーマはこういった問いに答えることにある。同時に、金融自由化論の主張に対する反論を提出することも試みられている。

第１章で、論文のテーマの説明、既存文献の整理を行ったあと、第２章ではベトナムの農村金融システムが叙述される。ここでまず、ベトナム農村金融の特徴はインフォーマルな金融とフォーマルな金融の両者が併存する二重構造的なものであることが示される。ただし農村におけるフォーマルな金融機関の伸張は著しく、中でもベトナム農業銀行(VBA)、ベトナム貧困者銀行(VBP)のプレゼンスは次第に大きくなってきている。

第３章では、主に農業銀行のパフォーマンスが検討されている。パフォーマンスは、貢献度と持続性というふたつの視点からなされている。貸出の伸び、顧客の数の伸びが貢献度を示す指標である。他方、持続性の指標は、預貯金獲得の伸び、資金回収、資金仲介費用の水準からなり、これらの数値の動きがチェックされている。ベトナム農業銀行の場合、貸出はここ10年ほど年二桁の率で伸びていること、預貯金の伸びも著しく、貸出原資のほ

とんどを預貯金でまかなえる態勢が整ってきたことが指摘されている。また資金回収には、業務データの信頼性、ないしベトナムの会計基準が国際標準を満たしていないことからくる問題点が言及されながらも、フィールド調査の結果等を総合的に判定して、回収パフォーマンスは悪くないと判定されている。これらの検討から、ベトナム農業銀行の1990年代の動きが概ね「成功」であったとしている。

第4章では、フィールド調査からえられた農家経済データから、ベトナム農村金融の問題点、特色等が指摘される。フィールド調査は1997年に、北部紅河デルタ、中部沿海地域、南部メコンデルタの3カ所で実施されたものである。ここで、金融の地域間格差、農村における貯蓄動員の不足（資金の都市から農村への流れ)、村の役職層に偏った融資、貧困者向け融資の一律配分等の問題点が示されている。同時に、ベトナム農村金融における大衆組織の役割が大きいことが指摘されている。そして、前章での分析とあわせて総合的に検討した結果、ベトナムの行政組織・金融組織のもつ制度能力、マクロ経済の安定化、村落組織の強力な下支えといった、ベトナム農村金融「成功」の諸要因が提出されている。

第5章は資金需要側の行動を、Tobit回帰モデルを使用して計量経済学的に分析したものである。分析の結果、フォーマル金融の融資は耕種、畜産等の生産に向かっており、消費用資金にはインフォーマルな資金が使われていること、また時にはインフォーマルな信用は生産用に使われていることもあり、総じてインフォーマルな金融のフォーマル金融補完的な役割が明らかにされた。

第6章は、貸手の信用制限的な行動にProbit分析を適用したものである。フィールド調査の結果によれば約36%が信用制限を受けているが、Probit分析の結果、村の中で評判の高い農家は信用制限をあまり受けていないこと、信用制限を受けている家計は従属世帯員数が多いこと、また借入希望額の多い農家は制限を受けやすいことを検証した。

第7章は、信用供与の農家経済への影響を、switching regression modelを使って分析したものである。量的にはまだ不十分であろうが、ベトナムでは、信用の制約を少しずつ取り払うことにより、農業生産を刺激することに成功したことが示された。

以上本論文は、ベトナムの農村金融の展開を詳細に検討しながら、社会経済的条件が適合すれば、いわゆる政策融資も成功することが可能であることを明らかにしたもので、学術上政策応用上貢献するところが少なくない。よって審査委員一同は、本論文が、博士（農学）として十分に価値のあるものと認めた。